

キャン ドウ

# CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2022年9月 [第99号]



活動の方向性 **チーフと住民参加を振り返る**

永岡 宏昌

ブランタイヤ便り **パロンベ県の葬式**

永岡 宏昌

報告 **3タイプの教室の建設を進めています**

2教室と2小部屋の「教室棟」、当初の計画の「1教室」

そして「小さな規模の教室」

報告 **マラウイでの活動—2022年6月～8月—**

フォト・レポート **ケニア調査で会った、地域保健ボランティア(CHV)**

事務局から

写真は、ケニア調査で再訪した、ムインギ東県ヌー郡—ヌー町の水源近くの水場

## チーフと住民参加を振り返る

代表理事 永岡 宏昌

当会が住民参加での教室建設活動を実施しているマラウイ・パロンベ県では、特定の家族が、住民を主導する立場を受け継いでいます。行政官の伝統権威(伝統首長区の長)、集合村長、村長として任命され、「チーフ」と総称されています。

この建設活動の準備段階の話し合いで、当会が住民に求めるボランティア参加の度合いの高さを説明しました。「住民の参加は可能か」と問いに、住民の多くは「チーフが可能と言え、可能である」と答えました。チーフの権威を尊重してはいます。しかし、住民自身が情報をもとに考えて、判断を示しているとは思いませんでした。

活動において、保護者への研修や建設事業として合意する総会には、住民が集まります。けれども、ボランティアで土や砂を集めて運んだり、溝を掘ったりする単純作業への参加は低調です。チーフは、「昔は、多くの住民がボランティアで作業に参加していた」と懐かしがります。学校関係者が、「マラウイは民主化したのだから、参加を強要できない」とチーフを諭す場面もありました。

学校での住民の作業は、マラウイでは「保護者」ではなく「村人」としての参加になります。村ごとに作業分担を決めて、それぞれの村長が村人を招集します。村長が、その参加

者に支援金やモノを分配できるのであれば、権威者として円滑に動員できそうです。しかし、当会の活動では、これらを副次的利益と捉えて提供しないので、動員は難しくなり、村長は、教室が必要という中心的価値をもとに村人の参加を促すことになります。うまく動員できる村長もいれば、関心が薄く参加を促さない村長もいます。また、村人が村長の働きかけに呼応しないこともあります。村ごとに参加度が異なると、分担を達成していない村の進捗を待つことが多く、作業の停滞につながっていきます。

この村長に起因する参加する村の不調和を解消できるのは、上位のチーフである集合村長、そして伝統権威です。これらチーフの話し合いで、村長の関わり方が改善していききました。また、チーフが共同で率先して資材の収集作業に従事し、村人の模範となることを意識して活動している学校地域もあります。一方、村長が村人を招集するチーフの権威を譲歩して、学校が保護者を作業に招集することを了承し、住民参加が改善する学校地域もできました。

この教室建設を通して、チーフが副次的利益の分配者ではなく、子どもの教育の保障に指導力を発揮する、「民主化」チーフとして住民の尊敬を集めてほしいと思います。

## ボランティア便り

### パロンベ県の葬式

永岡 宏昌

当会がパロンベ県で取り組んでいる住民参加による教室建設で、予定していた学校での活動が急に延期になる理由の多くは、地域で行なわれる葬式です。

マラウイ人スタッフから、地域の一般的な葬式の流れを聞きました。

亡くなると、家族は、まず、村長に報告します。そして、近所の人たち、遠くに住む家族や親戚への連絡を始めます。なきがらを家に安置し、すぐに地域の人たちが弔問に訪れ、それぞれ祈りを捧げ、いったん帰ります。夕食後に再度集まって、通夜が営まれます。教会メンバーが夜通し歌う中で、弔問者は睡眠をとります。

葬式を行なう日は、家族の都合で遅らせることができますが、一般的には亡くなった翌日に行われます。葬式に向けて、家族は棺と埋葬地の準備にとりかかります。棺は、地域の家具屋から出来上がっているものを買ったり、急いで製作してもらったりします。普段の買い物ではあまりされない後払いにも家具屋は対応してくれます。埋葬については、村の墓地があり、家族ごとに埋葬する区画が決まっています。穴掘りは、村の青年男子が無償で行ないます。家族が提供する食事に不満があると作業が進まないで、食事の質に気を遣います。

棺と埋葬地の準備が整うと、葬式を行ないます。葬式の前に、昼食が提供されます。村長と教会メンバーへは食事の質を上げて提供しますが、一般参列者は簡素なもので問題ないようです。午後、家の前で葬式を行ない、集まった人たちが棺を墓地まで運び、埋葬します。教会メンバーは再度、故人の家に戻って終了の祈りを捧げます。

亡くなった時から、短い時間で葬式が行なわれ、広範な人々が参列するのが特徴と言えます。家族、村人、近隣住民、直接関わりのあった人のほか、一親等の家族の職場の同僚なども積極的に参列するようです。先日、県行政官の父親が亡くなった際には、翌日は多くの行政官が葬式の準備を手伝い、翌々日はほとんどの行政官が葬式に参列しました。そのため、この2日間は県庁で予定されていた会議は中止となって、閑散としていました。

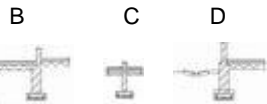
葬式を特に大切にしたい地域の人々の気持ちは、学校での活動の延期以外にも見られます。このような慣習のなかで、ある学校の建設リーダーが、地域で葬式が営まれる日に、建設作業は中止としないで、早朝から集まることに変更して、葬式に参列する前に作業を済ませた事例もありました。

報告

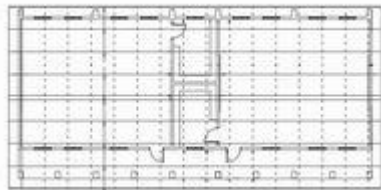
3タイプの教室の建設を進めています

2教室と2小部屋の「教室棟」、当初の計画の「1教室」、そして「小さな規模の教室」

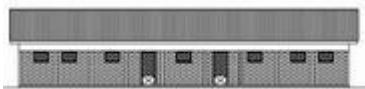
2021年2月に始めた当会のパロンベ県初等学校保護者住民参加による教室建設事業では、2校で教室棟(2教室と2小部屋)、7校で1教室を2年間で建設する計画でした。2校の教室棟2校、3校の1教室は順調に進んでいます。土壌安定化レンガ(SSB)の製作が必要な数に達成できない2校では、小規模の建設で合意し、1校で形成中です(1校は途中で活動終了)。



床面と壁、屋根



前面



左面/断面



教室棟(2教室と2小部屋): 2校

<主要資材>

鉄筋コンクリート(混合比1:3:6): 基礎底部

コンクリート(1:2:4): 床、傾斜路

敷き砂: 床仕上げ、排水路

鉄筋コンクリート(1:2:4): リングビーム

モルタル(1:8): 上部壁、プaster、黒板、基礎底部・リングビーム(スペーサー。鉄筋が地面や外気に露出しないよう固定)

モルタル(1:4): 基礎壁、壁、扉、窓

\* 混合比は、コンクリートは「セメント・砂・砂利」、モルタルは「セメント・砂」

<その他主要資材>

鉄筋 T10(直径10mmのねじり鉄筋)

鉄筋 R6(直径6mmの丸鉄筋)

土壌安定化レンガ(SSB) 18,900個

サイズ(H100mm x W140mm x L290mm)

保護者が土、砂、水を収集し、製作。

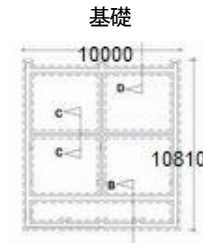
「セメント・土と砂」の混合比は1:20

1教室: 3校

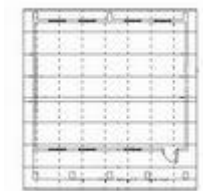
小さな規模の教室: 3校

土壌安定化レンガ(SSB) 9,000個

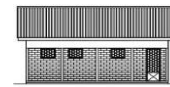
土壌安定化レンガ(SSB) 5,000個



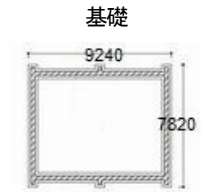
床面と壁、屋根



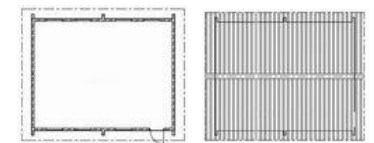
前面



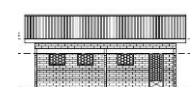
左面/断面



床面と壁/屋根



前面



左面/断面



扉と窓

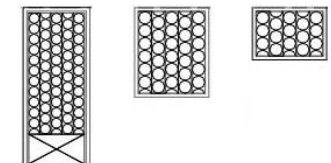
鉄製

窓は子どもが通る前面は雑音を減らすため高い位置に小さく、背面は大きくしています。

扉: 幅900mm x 高さ2100mm

大きい窓: 幅1000mm x 高さ1200mm

小さい窓: 幅1000mm x 高さ700mm



## ■パロンベ県

## 保護者参加による教室建設

## □6月

教室棟のクランベ校では、1つ目の教室のドアと窓の部分を開口した壁の建設。1教室のチトコロ校とミンガンボ校、ゼンジェ校も壁の建設を進めています。パーニ校では近くに臨時の事務所をおき、SSB製作促進の調整。ミレメ校はジェナラ伝統首長による説得も実らず、5月17日に活動の途中終了を確認しましたが、新任の県教育局長から住民参加を促したいとの要望があり、最終判断を保留。

## □7月

クランベ校とチトコロ校では、上部を「ロ」の字に固定する鉄筋コンクリートのリングビーム設置の準備。パサ校ではSSBの製作達成が困難であることを学校関係者が確認。小規模な学校施設の建設を希望しています。パーニ校とナゾンベ校でも建設規模の縮小を並行して検討。

## □8月

クランベ校とチトコロ校では、リングビームのコンクリート固め。ミンガンボ校では、壁の建設作業を休止してSSB製作。安定した地盤が深い場所にあったため、多量のSSBを基礎壁に使用し、追加が必要となったため。ナゾンベ校と小規模施設の建設を行なうことで合意しました。

## ■パロンベ県ムロンバ教育区

## 学校保健

## □6月

公益財団法人日本国際協力財団から「パロンベ県における子どもの健康を守る保護者の活動形成事業」の事業期間の延長(2022年4月～12月)が承認されました。保健研修の5テーマのうち、②子どもの発達、③子どもの保護についての手順書を社会福祉官が再確認しました。各校の教員5人(校長、学校保健栄養担当教員、一般教員3人)を対象に集合研修を行なう方針を教育官と合意。

## □7月

保健研修の①衛生・水・栄養、④HIV/エイズ、⑤リプロダクティブヘルスの内容を県保健局の健康情報促進官が他の行政官と分担して再確認し、訂正しました。教員研修の学校運営の講師として参加が可能なことを教育官と確認しました。

## □8月

新しい県教育局長に、学校保健事業と当会の目的を説明し、保健局との協働体制について意見交換を行ないました。県環境保健官に、当会の手当に関する考え方について説明し、協働体制について話し合いました。保健助手への手当なしには協力はできないとのこと。今後については県知事との話し合うことに合意しました。

## フォト・レポート

## ケニア調査で会った、地域保健ボランティア(CHV)

会報98号に掲載した、5月20日から6月5日までの「ケニア調査—マチャコス郡マシガ準郡を訪問」について、facebookの永岡宏昌の写真入りの投稿をもとに、再度、報告します。



郡CHVリーダーに聞く。左側の聞き手は、同行してもらった元調整員のカンダリさん。



看護官に連絡をとってもらい、当会が教室補修を実施した小学校で会って、郡CHVに話を聞く。栄養改善に注力し、作物栽培や土壌保全、農地のテラス掘りの指導、栄養バランスのとれた食事指導などを実践。



事前の連絡なしで訪問した2か所の医療施設で、CHVが週例の活動を実施しているところに遭遇。



診療所の看護官にCHVの活動を聞く。



保健センターで郡CHVと清掃員に話を聞く。この地域の当会CHVは修了証を受け取っていないというので、PDFファイルを印刷し署名。その後、修了証写しを渡す(後日、保健局から修了証原本が届いたとのこと)。

## 事務局から

### 報告

#### ◇組織

○8月27日、2022年度第3回理事会をZoomを利用したオンラインで開催。2022年度1月～7月活動報告と会計報告(東京事務所・ボランティア事務所)について審議し、承認。また、マラウイの監査法人による会計監査がすんだ2021年度ボランティア事務所会計報告を承認しました。

#### ◇支援

○6月30日、事業復活支援金100万円を受領しました。

#### ◇国内活動

○7月16日、「アフリカを語る集い2022」(日本マラウイ協会主催)第2部 2.1 医療・教育・地球環境で、代表理事 永岡宏昌が発表。

### 人の動き

○9月9日、調整員 宇野由起信がマラウイから一時帰国。

○9月11日、永岡宏昌がマラウイに出張。

### お知らせ

■10月1日(土)・2日(日)

グローバルフェスタ JAPAN 2022 に  
リアルで出展



「国際協力の日」(10月6日)に合わせた国際協力のイベントは、昨年に続いてリアルとオンラインでの開催。今年はリアルで出展します。時間は10時から17時。会場は東京国際フォーラム(最寄り駅は有楽町)ホールE2(B2F)とロビーギャラリー(B1F)、オンライン会場は <https://gfjapan2022.jp/>。当会のブースはホール内の22番です。活動紹介のパネルを展示し、模型で教室建設を体験していただきます。

■次号は2022年12月に発行の予定です。

#### CanDo アフリカ [第99号]

2022年9月28日発行

発行人: 永岡宏昌 編集人: 佐久間典子  
発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)  
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室  
電話: 03-3822-1041  
電子メール: [tokyo@cando.or.jp](mailto:tokyo@cando.or.jp)  
ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>  
facebook page: <http://www.facebook.com/candoafrica>  
郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会